

日吉大社自然観察倶楽部通信

No.6 初夏の日吉大社の植生を見る H23年6月26日



雨の予想される天気の中、5名で初夏の日吉大社を散策しました。本当は横川まで行き、ブナを観察する予定でしたが、途中の八王子山まで行くことにしました。行程が短くなった分、じっくり植生を観察することが出来ました。

まずは、日吉大社で比叡山の植生について説明を受けました。それによると、比叡山は海拔848mで、本来はカシやシイの照葉樹林やモミに覆われます。水平分布(同じ緯度にどんな国があるか)で

見ると、ブータンから(中国を経て)日本まで照葉樹林帯が続いています。国は違っても、同じ照葉樹林帯では同じような文化が生まれることには驚きました。

また、植生は気温や水分による影響を受けやすく、垂直分布、つまり高度によって生えている植物が変わってきます。ちなみに、日吉大社は120m、八王子山で381mあり、今回のメインだったブナは600mを越えたところに多いそうです。

続いては、日吉大社内を散策しました。坂の手前でカナメモチやアラカシ・ウラジロガシなどを観察した後、珍しい植物に出会いました。下の写真は山王鳥居を過ぎたあたりです。



傾いていたため、切り倒されたモミ ⇒
樹齢約160年
まだ乾燥していないためか、小さな切れ端でもとても重い。
⇒(切り口)

← 若いモミの実



タブノキを見た後、西本宮に入り、日吉大社を象徴する植物であるカツラやフタバアオイを観察しました。サワガニがオオセンチコガネの羽根をつかんで巣穴に逃げていくおまけつきです。

次に、御灯道(おあかりみち)を通り、八王子山の参道に出ました。御灯道とは、山王祭の時に、八王子山山頂のお宮まで、灯りを運んだ道だそうです。

八王子山まで来ると、急な上り坂になります。ある程度登ると、下(日吉大社)とは違った植生が現れます。イチイガシやツガがその例です。イチイガシに至っては、ある地点から急にたくさん見られるようになります。秋になれば、(毛の付いた)団栗をたくさん落とすので目立つかもしれません。

山頂付近でイヌガシを観察した後、山頂のお宮の前ですばらしい眺めを見ながら休憩しました。帰る途中では、ムラサキシジミという蝶を見つけ、甘い匂いがしたと思って辺りを探すと [ノリウツギ](#) という花が咲いていました。(写真；左下)



最後に、東本宮に入り、渡りをする蝶：アサギマダラの食草といわれるオカタツナミソウを観察しました。もう、花は終わり、実らしきものしかありませんでしたが、秋になれば蝶が卵を産みに来るかもしれません。

暑い最中で半日の観察会でしたが、色々なものを観察できました。植林地の多い比叡山ですが、八王子山は比較的その影響

が少なく、本来の比叡山の姿が垣間見える場所です。みなさんも、一度足を運ばれてはいかがでしょうか？

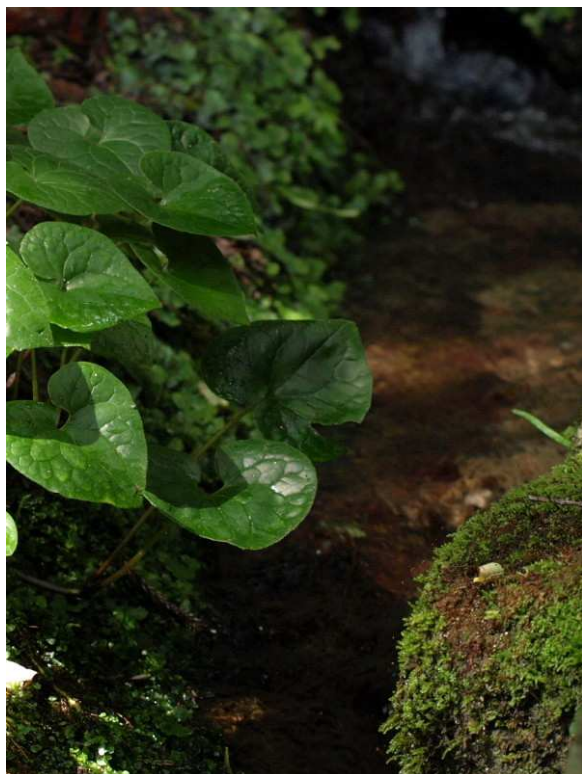
観察したもののリスト

2011.6/26 日吉大社～御灯道～八王子山

木など： アラカシ・カナメモチ・サカキ・タブノキ・ウラジログシ・ツブラジイ・カツラ・モミ・ツガ・イチイガシ・イヌガシ・ヤブムラサキ・イズセンリョウ・コアジサイ・ハクチョウゲ・ノリウツギ(花)・モッコク(花)・アリドオシ(実)・テイカカズラ(花)

草本など： カンアオイ・マムシグサ(実)・オカタツナミソウ(実)・ベニヒガサ(きのこ)

動物・虫系： カジカガエル(鳴き声)・キジバト・リスの食痕(オニグルミ)・モリアオガエル・タゴガエル・サワガニ(と巣穴)・シロカネグモの仲間・ウメエダシヤク・オオセンチョコガネ(赤)・ムラサキシジミ



↑ [フタバアオイ](#)